

教育訓練省
フオンドン大学
外国語学部日本語科




報告書 七夕祭り研究

学生 : Đồng Thị Như Ngọc
学生番号 : 518705724
クラス : 518705B4
指導教官 : Đỗ Phương Quế Hoa


ハノイ、2022 年 01 月

目次

目次.....	i
図のリスト.....	ii
表のリスト.....	ii
はじめに.....	1
1. お祭りの概要.....	2
 お祭りの定義.....	2
1.2. 祭りの構造と機能.....	2
1.2.1 儀礼.....	2
1.2.2 祭り.....	3
1.3 日本の伝統的なお祭りの祭り.....	3
1.4 七夕祭り概略.....	4
2. 七夕祭り紹介.....	4
2.1 七夕祭りとは.....	4
2.2 七夕祭り起源.....	5
2.3 七夕伝説.....	5
 1. 中国.....	5
2.3.2. 日本.....	6
2.3 七夕の名前意味.....	6
2.4 七夕祭りの活動.....	7
2.5 日本三大七夕祭り.....	7
2.5.1 宮城県仙台市 仙台七夕まつり.....	7
2.5.2 神奈川県平塚市 湘南ひらつか七夕まつり.....	8
2.5.3 愛知県安城市 安城七夕まつり.....	8
3. 七夕祭り影響.....	9
3.1 日本人にとってお祭りの意味.....	9
3.2 七夕の祭り過去と現在.....	9
3.2.1 過去.....	9
3.2.2 現在.....	11
3.3 七夕祭り、さまざまな名前で知られている.....	12

 わりに.....	13
参考文献.....	14

図のリスト

図 1 星ベガとアルタイル..... 	4
図 2 孝謙天皇.....	5
図 3 牛郎織女.....	6
図 4 七夕の笹飾りライトアップ.....	7
図 5 七夕の笹飾り.....	7
図 6 鮮やかな吹き流しが街を染める.....	7
図 7 祈りの吹き流し.....	8
図 8 神奈川県に吹き流し.....	8
図 9 町で七夕踊り.....	9
図 10 藩政期～明治期の七夕.....	10
図 11 短冊は、朝露で墨で書く.....	10
図 12 葉に和歌を書く.....	11
図 13 鮮やかな吹き流しのアニメ形.....	12
図 14 町でダンサー.....	12

表のリスト

表 1 七夕祭りの他の名前.....	13
--------------------	----

はじめに

日本は文化を注意深く吸収し、他国から文化を選び出し、独自の文化に変えてきた国である。また、お祭りは日本人が他国から吸収し学ぶもののひとつであり、日本人はお祭りが大好きであり、お祭りは彼らの生活の不可欠な部分です。日本では、地域ごと、地域ごとに、その地域特有のお祭りが 있습니다。この論文は、日本全国で大規模に開催されている最大の祭りの 1 つである日本の七夕祭りの研究に焦点を当てています。七夕まつりを学ぶことで、日本の伝統的なお祭り全般の概要を知ることができ、特に七夕まつりについてある程度理解しています。

本稿は、3 部分 の構成であり、具体的な内容は次の通りである。第 1 節では、日本の伝統的なお祭りの概念であるお祭りやお祭りの概念の概要を説明する。第 2 節では、具体的な七夕まつり、コンセプト、歴史、各地域のお祭りの時期、お祭りの意味を紹介する。第 3 節では、七夕まつりが日本人にとって何を意味するのか、過去と現在との違いについて話す。

七夕まつりなどの日本のお祭りを研究することで、日本の世界観をより深く理解することができ、日本に住むベトナム人があなたの国のコミュニティに溶け込み、日本企業で働くベトナム人が日本語をよりよく理解できるようになる。

1. お祭りの概要




1.1 お祭りの定義

祭りは精神的、文化的活動の一種であり、精神的なニーズを満たし、共同体意識を強化するための実践的な活動だ。祭りの最初の利点地域社会にもたらすことは精神的な必要性の満足であり、それによって各個人と地域社会全体の生きている必要性への希望を生み出す。

フォークロアの辞書の定義によると、「フェスティバルは、地域内または全国の性別、職業、産業、または宗教に属する集団、組織の社会文化的活動の形態である。

日本語では、まつりという言葉はお祭りを意味だ。まつりは、本質的には神道出身の日本人の先住民族の祭りであり、毎年決まった日に開催される。まつりは主に神の起源であり、神や死者の霊をなだめるための古代の神道の儀式に由来し、農業のサイクルを完了する。いくつかの神道の儀式と、中国から輸入された仏教や儒教の儀式を組み合わせ、毎年恒例の祭りのカレンダーを作成する。まつりは、儀式の部分とお祭りの部分で構成されている。これは、参加者がお祭りやごちそうの形で参加者に共感を伴いながら、神との活発なコミュニケーションの状態に入る象徴的な活動だ。

今日、社会の発展と多様化に伴い、祭りは2つの異なる方向に発展している。その中で  2つの主要な傾向がある：伝統的な祭りと現代の祭り。

+伝統的なお祭り：伝統的なお祭りとしても知られている、古典化の方向に開発されたお祭りの種類であり、国や人々の伝統的な価値観に関連付けられている。

+現代の祭り：通常、国の現代の社会生活で発生するイベントに関連する、近代化の方向に開発された新しい祭り。

祭りは、精神的なニーズの満足をコミュニティにもたらし、社会生活の多くの側面を含み、反映する。

1.2. 祭りの構造と機能

お祭りの基本的な構成は、式典とお祭りの2つの部分で構成されている。

1.2.1 儀礼

一般に信仰といわれる超自然的世界に関する観念的把握を、一定の伝統的行為様式をもって外的に表現したもの。その本質は超自然への順応を実現する手段という点にある。超自然への順応には、タブーを守るとか一定の禁欲的行動をとるなどの消極的儀礼と、供犠や祈祷のように直接的に超自然との交流を意図する積極的儀礼とがある。また、妊娠、出産、成人、死亡などのような人生の諸段階に行われる推移ないし通過儀礼と、狩猟や農耕などの収穫の不安を除去し、あるいは収穫の増大

を目的とする増殖ないし強化儀礼の区分もある。「儀礼」の部分は、常に塔、寺院、神社などの威厳のある場所で行われる。

1.2.2 祭り

祭りの残りの主要な要素だ。祭りは「儀礼」の直後に行われ、式典よりも多くの参加者が集まる。これは、大規模な集団活動の一種であり、誰でも参加でき、式典の最もエキサイティングな部分であるため。祭りの部分は、多くの場合、祭りの中心である行列によって表される。誰でも行列に参加して、行列の中でトランペットや太鼓の音に合わせて踊ることができる。また、豊富で多様なゲームやパフォーマンスのシステムにより、多くの視聴者の注目を集めた。お祭りの部分は、通常、式典の部分よりも長くなる。これは、誰もが喜びと興奮を表現し、交換し、出会い、楽しみ、日常の悩みを忘れる時間だから。

1.3 日本の伝統的なお祭りの祭り

日本のお祭りの本来の目的は「神様に感謝する」こと。「祭り（まつり）」という言葉の語源も「祀る（まつる）」です。神を慰め、祈願すること、またはその儀式を指し、土着の神様、神道または仏教に由来します。日本人のお祭りに対する思いを理解する上で重要なのが、「ハレ」と「ケ」の概念。「ハレ」とは「非日常」、「ケ」は「日常」。祭りは「ハレ」であり、華やかに執り行うことで「ケ」をリセットする意味があります。

日本人は、この「ハレ」の機会を楽しみにし、「ケ」の日常を生きる活力の源としているのです。また、神様とは関係のない新しいものもあります。例えば、地域おこしのための市民祭り、雪まつりや桜まつりなど季節に由来するもの、時代まつりのように歴史を祝うもの、サンバカーニバルや春節に代表される外国由来のお祭りなど。これらも文化を尊重し、季節に感謝し、人々を繋ぐため、日本に欠かせないものとなっています。

現在における日本での祭りとは「美味しいものを食べて花火を眺めるもの」と考えている人も多いですが、大昔は神々をお祀り（おまつり）する神聖な行事だ。日本での祭りが始まったのは、大昔から伝わる「岩戸隠れ」の神話にあると考えられている。岩戸隠れとは、太陽の神である天照大神（あまてらすおおかみ）が天の岩戸に隠れてしまうことで国中から光が失われ、それをなんとかしようと考えた八百万の神々が岩戸の前で踊ったり歌ったりの大宴を繰り広げるというお話である。八百万の神々は、岩戸の奥に隠れてしまった天照大神の気を引いて外へ出そうと、岩戸の前で盛大な宴を行った結果、ついに天照大神は岩戸から顔を出し、国中に光が戻った。この「宴」こそが、現在の祭りの起源になっていると言われている。また、「祭」という言葉の語源は「祀る（まつる）」という動詞で、神様に供え物を献上する意味合いも持っている。このように、日本の祭りの始まりには、神々が深く関連していると考えられているのだ。以降は、神様へ感謝の気持ちを表すためや祈りを届けるために祭りが行われてきた日本。古代では五穀豊作や平和などを願い、災いが訪れた際には退散を願うなど、祭りは常に人々の暮らしと密着したものだ。江戸時代に入る頃には、祭りはより「娯楽化」されて神輿や獅子舞・花火といった

派手な演出で庶民を中心に、大衆文化として定着していった。。明治時代に発令された「神仏分離令」によって一旦祭りが禁止されますが、終戦後には日本の祭りを復興させようとする動きが盛んになり、それ以後は江戸時代に戻ったかのように祭りが行われるようになった。「神事→祈祷→娯楽」へと徐々に変化していった日本の祭りですが、日本の祭りの最大の特徴を挙げるとすると「多様性」のひとつだ。東北地方では竿燈やなまはげが、四国では阿波踊り、沖縄ではエイサーが、というように、地域によって祭りで行われるイベントや象徴が全く異なるところが面白いですよね。多様性のある日本の祭りですが、その中でも全国的に共通していることがある。それは「神輿」の存在である。「神様が乗るもの」と考えられている神輿は、多様性のある日本の祭りの中でも一貫して見ることのできる伝統文化と言っても過言ではない。多様性の中に見られる一貫性…日本の祭りの歴史、知れば知るほど面白く感じてくる。

1.4 七夕祭り概略

七夕まつりは、日本と中国の習慣や伝統が融合した文化である歴史的なお祭りの一種である。七夕は全国で開催される5つのお祭りで構成されている。この休日、人々はそれが実現することを期待して彼らの願いを書き留めることがよくある。



2. 七夕祭り紹介

2.1 七夕祭りとは

星祭りとしても知られる七夕まつりは、中国の七夕に端を発した日本のお祭りである。七夕まつりは、織姫と彦星の出会いをもとに開催されている。織姫はベガの星形成を表し、彦星は天の川で引き離されたアルタイルを表す。最初の2つの星の交差点は、後に星祭りとしても知られる七夕祭りを作成した伝説を生み出す。

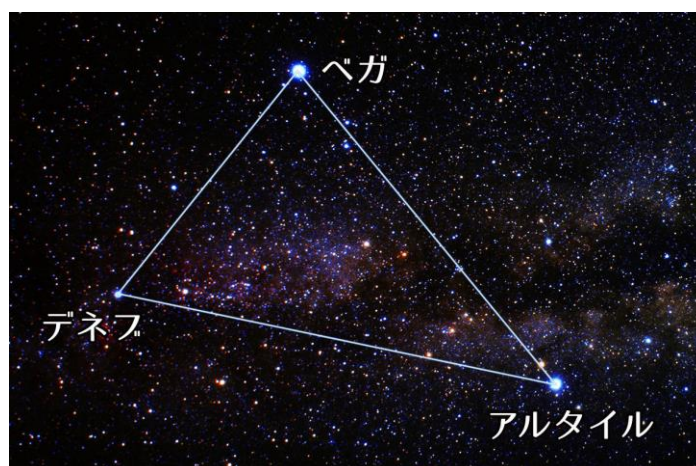


図1 星ベガとアルタイル

2.2 七夕祭り起源



図2 孝謙天皇

この祭りは、755年に光仁天皇によって日本に紹介され他。七夕の別名である才能の祭り（乞巧奠）に端を発し、中国で開催され、日本にも移りた。平安時代から京都御所。七夕は江戸時代の初めに一般の人々の間で広く人気を博し、盆祭りと混ざり始め、盆の伝統（その後7月15日に盆が開催されたため）が徐々に現代の七夕に発展した。



日本の七夕の起源は、乞巧奠だけではない。日本では、毎年7月7日に「棚機女(タナバタツメ)」という巫女が水辺で神の降臨を待つという民間信仰とむすびついた行事がある。日本の七夕は、この「タナバタツメ」と、中国の乞巧奠とが合体したものだという説が有力である。ちなみに乞巧奠は、平安時代の貴族たちが中国の風習を真似て導入していたようで、その後乞巧奠が民間に流れていき、次第に「タナバタツメ」と合わさっていったであろうか。民俗調査などでは、七夕がお盆(旧7月15日)を迎えるための準備としての意味をもつ(七夕盆)場合や、農業の豊作を願う意味で行う場合など、様々な意味合いを持っている場合がある。これは後世になって民間のいろんな行事と混ざり合っていて、出来上がったものと思われる。現在、日本は太陽暦に切り替えているため、お盆を祝う時期は地域によって異なり、そのほとんどは太陰暦の元の日付に近い太陽暦に従って8月15日に行われ、七夕と盆の時間は別である。

2.3 七夕伝説

七夕まつりは、中国の牽牛織女の伝説に基づいて始まり、日本へは星まつりとして伝えられ他。はじめ宮廷貴族を中心とする都の生活のうちに受け継がれ、書道の上達や恋愛の成就を祈る風習となった。



2.3.1. 中国

『牛郎織女』の物語の中で有名なものに京劇などで演じられる『天河配』がある。天の川の東岸に暮らした織女は、人と神の恋情を禁じた天の女帝・王母娘娘（おうぼにゃんにゃん）の外孫女。朝から晩まで「天梭」を使い、「天衣」と呼ばれた雲錦を織っていた。ある日、姉妹たち（七仙女と同一視された）と共に人間界の河（碧蓮池）の辺に降り来たりて水浴をした。人間界の青年である牽牛郎が飼う牛（金牛星の化身）の助言によって、河の辺で水浴びをしている天女の紫色の羽衣（あるいは桃色の羽衣）を盗んだ（一説には織女を見かけて一目惚れした牽牛郎は、彼女の羽衣を盗んで隠された）。羽衣を失った織女が天界へ帰れないので地上に残って、最終的には牽牛郎の求婚を受け入れ、一人の男の子と一人の女の子を生んで、男が耕し、女が機織りをする幸福な生活を送っていた。

しかし、幸福な生活は長く続かず、天上から消え失せた織女を探していた王母娘娘は、織女と人間の男の結婚を知って怒り、「天兵」

(天にある軍隊)を遣わして、天界の戒律に違反した織女を捕らえて天に連れ帰る。牽牛郎が天に昇る道もなく、彼の飼い牛より「私が死んだ後、私の皮で靴を作って、その靴を履けば天界に上ることができる」だと言われている。その後、飼い牛が死んだ。牽牛郎は飼い牛の言うとおりにして、牛の皮で作った靴を履き、子供たちを連れて天界に上り織女を探している。これに怒った王母娘娘は、牽牛郎が自らの外孫婿であることを認めなかった。容姿を隠した七人の天女のうちで織女を選んで会うことを許した条件を出した。牽牛郎が王母娘娘からの非難に困らせた。しかし子供たちは母親を認めた。王母娘娘は、織女を再び人間界に戻すことに反対し、織女を天牢に閉じ込めるよう部下に命じた。織女を追いかけていた牽牛郎が、織女のところに到着しようとした際、残忍な王母娘娘は突然頭から金簪を抜いて一振りすると、天の川で輝く大波を引き起こし、牽牛郎と織女は兩岸に分け隔てられている。のちに王母娘娘によって毎年七月七日だけカササギが橋を架けて、牽牛郎に橋を渡って織女に会うことが許されていた。それは、古代封建制における恋愛と結婚の不自由を反映している。



図3 牛郎織女

2.3.2. 日本

天帝の娘である織姫は、機を織るのが仕事である。しかし仕事ばかりする織姫を心配した天帝は、織姫を天の川の向かい岸にいる彦星と引き合わせた。すると二人は恋に夢中になって仕事を全くしなくなってしまった。それをみた天帝は怒り、二人を天の川の兩岸に引き離してしまった。

二人の様子を哀れに思った天帝は、一年に一度、7月7日の夜にだけ会うことを許した。しかし、7月7日に雨が降ると天の川の水が増水してわたることができないので、カササギが二人の橋渡しをする。



2.3 七夕の名前意味

七夕という名前は、日本語の読み、漢字の漢字に由来している。七夕、以前は七夕と呼ばれていた。神道の浄化の儀式は、巫女が七夕（棚機またはバンマイ）と呼ばれる織機に特別な布を織り、保護のために神に捧げられたのと同じ頃に存在したと考えられている。秋。次第に、この儀式は喜光伝と合体して七夕になった。七夕と呼ばれる七夕の名前は、元々は起源は異なりますが、同じお祭りになった。

2.4 七夕祭りの活動

七夕とは、織姫さまと彦星さまが天の川を渡って、1年に1度だけ出会える7月7日の夜のこと。短冊に願い事を書いて、笹竹に飾り付ける。「雨が降ると天の川が渡れない」ともいわれて、てるてる坊主をつるした人も多いのでは。

ではまず、セタが現在どのようなお祝いされているのか、まず、セタのメインとなる笹飾り。笹に飾るものには色々な種類があって、それぞれ意味を持っている。たとえば、「商売繁盛を願う」、「巾着」長寿を願う「折鶴」、織姫の織りを象徴する「吹流し」、「豊漁を願う鯛飾り」。この笹飾りは七夕の時期に色々なところでみることができます。もちろん、セタのお祭りでもです。多くの地域で七夕のお祭りが催されます。有名なものには「仙台七夕まつり」があります。お祭りでは多くの人が商店街に集まります。商店街には笹飾りや、屋台、地域によっては音楽が演奏されたり、盆踊りが行われます。人気の屋台のメニューといえばたこ焼きや焼きそば。冷たいビールなどがあります。また、短冊と呼ばれる紙に願い事を書いて飾るのも七夕で広く行なわれていることの一つです。願い事を書いたら笹飾りに飾ります。「織姫と彦星が会えますように」、「家族みんなが健康でありますように。」、

「お金持ちになりたい」などがよくある願い事です。



図5 七夕の笹飾り



図4 七夕の笹飾りライトアップ

2.5 日本三大七夕祭り

2.5.1 宮城県仙台市 仙台七夕まつり



図6 鮮やかな吹き流しが街を染める

七夕まつりといえば、有名なのが宮城県仙台市で行われる「仙台七夕まつり」である。その歴史は古く、初代仙台藩主・伊達政宗公の時代から続く伝統行事として伝えられ、「七夕まつり」といえばこのお祭りが思い浮かぶ人も多いのではないだろうか。

全国から毎年 200 万人を超える観光客が訪れる、まさに全国随一の七夕まつりである。豪華さを誇る現在の観光七夕の形になったのは、実は昭和に入ってから。もともとは家ごとに行われる、仙台市民の素朴でつつましいお祭りだった。

仙台七夕まつりは近年益々豪華になってきている。竹飾りも新しい趣向を凝らし、時流に合った飾り付けも登場している。しかし仙台七夕は、絢爛豪華な飾り付けばかりが特徴ではない。仙台伝統の七つ飾りがどの竹飾りにも下げられていることや、本物の和紙で作られる手作りの七夕飾りなど、400 年間続く仙台七夕の良き伝統が現代にもきちんと守られていること。



図7 祈りの吹流し

2.5.2 神奈川県平塚市 湘南ひらつか七夕まつり

神奈川県平塚市で毎年 7 月 7 日を挟んだ前後数日に開催される湘南ひらつか七夕まつりは 1951 年（昭和 26 年）から行われているお祭りである。平塚市は戦争中に大空襲にみまわれた場所（1945 年 7 月）で市内の 70% にものぼる場所が焼け野原となってしまった。



図8 神奈川県に吹き流し

その後、戦後復興事業をすぐに開始し、商業復興策として第一回目の湘南ひらつか七夕まつりが行われることになった。市内を役 2 キロにもわたって七夕飾りで装飾してにぎわうお祭りで、装飾や七夕祭りの中で行われるイベントも毎年違った趣向をとり入れることで、現在では湘南ひらつか七夕まつりの期間中に 300 万人ものひとが集まるお祭りになっている。

2.5.3 愛知県安城市 安城七夕まつり

愛知県安城市で毎年 8 月の第一週の週末の 3 日間に開かれる安城七夕まつりは 1954 年（昭和 29 年）にスタートしたお祭りである。実はこの安城七夕まつりがはじまる 2 年前に安城市は誕生したばかりの新しい市で JR 安城駅周辺の商店街の方々が考案したのが始まる。

「市民発信のまつり」としても有名な七夕祭りで誕生以来参加する人や地域が増え続け現在では日本三大七夕祭りとして知られるようになった。

1978 年（昭和 53 年）には「全国郷土祭」に参加し特徴ある竹飾りが披露され、仙台・平塚と並んで日本三大七夕祭りとして広く知れることになった。



図 9 町で七夕踊り



3. 七夕祭り影響



3.1 日本人にとってお祭りの意味

日本人にとっては、日本に紹介されたお祭りですが、その変化に伴い、次第に大胆な日本の伝統を持つお祭りになった。七夕は、日本で最も美しくロマンチックな伝統的なお祭りの 1 つである。彦星と織姫の兩岸の長距離逸話を思い起こさせるだけでなく、この日は色とりどりの小さな紙で竹の木をイメージして願いや思いを表現する。

3.2 七夕の祭り過去と現在

3.2.1 過去

江戸時代の七夕風習 江戸時代になると、七夕はすっかりと庶民の行事として定着した。技芸の上達を願う気持ちはそのままですが、お祭りとしてかなり盛り上がりを見せていたようだ。前述の「銀河草紙」には、さまざまな風習が紹介されている。その一部をご紹介します。



1. 笹飾りと笹流し

七夕の笹飾りは、江戸後期には既に盛んになっていたようで、「今の世のならいに、七月五日または六日に五色の染紙を色紙短冊の形に切りて、詩歌を書き、長き竹に結び付け、幼童ら市中をささげ歩いて遊戯をなし…」とある。江戸時代は子どもたちが笹を持って、街中を練り歩いたことがわかります。



図10 藩政期～明治期の七夕

(2)七夕踊り

七夕の夜には「七夕踊り」という踊りの会が催された。これは諸芸を教える師匠の家が主催して行なうもので、「銀河草紙」には「手習いをしゆる家々には、この日門人を迎え、手向けの詩歌を書かしめ、夕べには提灯をともし連ねて、踊りを催ふす」とある。

(3)芋の葉の露で書道

七夕の朝は早起きして、芋の葉に付いた露を集めて墨をすって書道をして達筆を願った。この日は硯もよく洗い清め、筆も新しいものを使ったという。芋の葉の露を使う理由は、「銀河草紙」によると「芋の葉における露は、みるみる白金のようにて、いとも清くみゆる」から だそうで、



故事などのいわれは無いとしている。



図11 短冊は、朝露で墨で書く

(4)梶の葉や短冊に和歌を書く

七夕には、星に捧げる和歌を詠んだり、詩を作ったりする風習もあった。『銀河草紙』には、「短冊色紙書法」として短冊や色紙に詩歌を書く「書き方」の例が



図12 葉に和歌を書く

絵で示されている。また短冊だけでなく、梶の葉に書く風習もあったと紹介している。



(5) 星に小袖を貸す

江戸時代には、七夕の日に着物を星にお供えする風習があり、人々は「星に小袖を貸す」と言っている。この風習は「貸し小袖」といい、着物をお供えするとよい着物に恵まれる、などと言われている。

その他、「銀河草紙」には、裁縫を教える先生が弟子の女性を招いて、模様を描いた紙で小さな男女の衣服を縫って手向ける風習を紹介するほか、貴族たちが和歌の上達を願って歌会を開き、蹴鞠をし、生け花などを行ったことなどを紹介していて、さまざまな風習が繰り広げられていた様子が伺える。

なお、「銀河草紙」の著者である池田東籬(1788～1857)は京都の人で、朝廷の役人として勤めながら、一般向けの本を多く著した作家である。ですので、この本に書かれた風習は、当時の京都で行われていたものではないかと思われる。

3.2.2 現在

今日の七夕まつりは非常に多様で豊かで、以前のように短冊に願い事を書く日ではない。私たちは神殿に行って新しい関係を見つけたり、強い関係を維持したり、愛のライバルを追い払ったりすることを祈ることができる。神社の七夕まつりでは、織姫や彦星の紙人形に心の願いを書いて、神社のいたるところに置かれた竹の枝に吊るすことができる。形アニメや映画のキャラクターから、アスリート、政治家、かわいい動物などまで。。ダンサーは通りで浴衣を着る。



図 14 町でダンサー



図 13 鮮やかな吹き流しのアニメ形

3.3 七夕祭り、さまざまな名前で知られている

名前	ひらがな読み方
秋七日	Aki-nanoka
芋の葉の露	Imo-no-ha-no-tsuyu
七夕雨	Tanabata-ame
七夕送り	Tanabata-okuri

七夕紙	Tanabata-gami
七夕色紙	Tanabata-shikishi
七夕竹	Tanabata-take
七夕竹売	Tanabata-takeuri
七夕棚	Tanabata-dana
短冊竹	Tanzaku-dake
星今宵	Hoshi-koyoi
星宮祭	Hoshi-no-miya-matsuri
星祭	Hoshi-matsuri

表 1 七夕祭りの他の名前



おわりに

本稿では、日本の七夕祭りが紹介されている。七夕祭り日本まつりは、先住民の文化と外国の文化が融合した色とりどりのお祭りである。日本のお祭り、特に七夕まつりでは、喧騒から離れて、つらい日々の悩みや疲れに気付かなくなった。 、代わりに、フェスティバルの参加者の顔に明らかなのは喜びと興奮である。

日本は経済が安定しており、ベトナムのように戦争で荒廃していないので、日本に行く部署は伝統的なお祭りをこのように整然と保存し、促進することができる。日本の伝統的なお祭りを維持し発展させる方法は、ベトナムは学ぶべき。

つまり、七夕まつりは非常に興味深いトピックであり、勉強する価値がある。このお祭りを通して、私たちは全国で開催される一年で最大の祭りの 1 つである七夕祭りをよりよく理解するだけでなく、世界観、日本人の人間の生活についても理解することができる。その上、それはまたお祭り、構造、機能、お祭りの一般的な分割、そして特に日本の伝統的なお祭りについての知識を追加する。

参考文献

1. 更新(2017) 『七夕のはなし』

<http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/~kazu/tanabata/tanabata.html> (閲覧日：2021 年 12 月 15 日)

2. 『儀礼とは』

<https://kotobank.jp/word/%E5%84%80%E7%A4%BC-53544> (閲覧日：2021 年 12 月 20 日)

3. (2014) 『日本三大七夕祭り や国内で行われている七夕 の行事を知ろう』

<https://www.kyosei-tairyu.jp/star-festival/event.html> (閲覧日：2021 年 12 月 20 日)

4. (2021) 『牛郎織女』

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%9B%E9%83%8E%E7%B9%94%E5%A5%B3>
((閲覧日：2021 年 12 月 20 日)

5. (2021) 『Người Nhật đón lễ hội Tanabata như thế nào?』

<https://we-xpats.com/vi/guide/as/jp/detail/3353/> (閲覧日：2021 年 12 月 15 日)

6. (2021) 『七夕』

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E5%A4%95> (閲覧日：2021 年 12 月 12 日)